

濃密でダイナミックなピアノズム

セルゲイ・ラフマニノフ

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

ラフマニノフは作曲家としても指揮者としても成功した。そのうえ、大きな手と卓越したテクニックによって当代随一のピアニストとしても名を馳せた。政治的に混乱する母国ロシアを離れてからは、異国の地で家族を養うため、安定して収入が得られるピアニストとしての活動に注力する。そんな彼が晩年に作曲したのが《バガニーニの主題による狂詩曲》。作曲家としての円熟と、ピアニストとしての技巧との、両方が
味わえる傑作だ。

A

2025

JUNE

[第2039回]

🎵🎵

バガニーニによる超絶技巧の旋律を
超・超絶技巧で変奏曲に仕立て上げ
超・超・超絶技巧で演奏するラフマニノフ
イラストレーション: ©IKE

超絶技巧対決！

ニコロ・バガニーニ(1782~1840)といえば、「悪魔に魂を売った」と噂が立つほど、^{うわさ}凄まじいテクニックをもった稀代のヴァイオリニスト。芸術における技巧の重要性を、大きく知らしめた音楽家だ。時代も楽器も異なるが、技巧派として演奏活動をしていたラフマニノフも、きっとバガニーニについて思うところは多かったに違いない。